卒業論文

大学生に広がる余裕の喪失

――奨学金制度を利用する大学生の語りから――

2014 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2018 年 1 月　提出

要　約

本研究では、今日の若者が抱える問題について、日本学生支援機構の貸与型奨学金を利用している大学生の調査をもとに研究を行った。ここで取り上げる、奨学金制度は、日本学生支援機構の貸与型奨学金のことを指している。日本学生支援機構の奨学金利用者の数は、1990 年代後半から急増し、1998 年の 50 万人から 2006 年には 100 万人を突破、さらに 2016 年では 133 万人に達している。奨学金制度を日本の大学生の 2.6 人に 1 人が利用している状況が、今日の若者の特徴の一つである。このことから、若者が抱える問題について考える際に、このような奨学金利用者の多さに着目し検討することにした。

先行研究から、奨学金制度の利用が急増した背景に、4 年制大学進学率上昇や世帯収入の変化があることを述べた。また、日本社会において、大卒と高卒で就職するのでは、将来獲得する経済的資本に差があることから、より高い教育達成を得ることが求められていることがうかがえる。また、学校が文化を通じた階級の再生産に寄与していることも示唆された。貧困の問題を取り上げる際にも、貧困の世代的再生産の理論が用いられている。そして、貧困の世代的再生産を防ぐためには、「学歴資本」を得ることが求められていることがうかがえた。しかし、貸与型奨学金は、将来返還しなければならない。ここから、奨学金の返還が、今日の若者の暮らしに負の影響を与えている面が存在するのではないかという疑問が生じた。すなわち、高い教育達成を求めて、奨学金制度を利用することで、かえって、若者の生活に、負担を生じている事態が起きているのではと考えた。筆者の周囲にも、奨学金制度を利用する若者が多く、様々な不安や問題を抱えていたことから、それらの点を問題意識歳とし、奨学金制度を利用する大学生にインタビュー調査を行った。その結果、奨学金制度を利用する若者の中には、利用している現在から、将来展望に至るまで、多くの不安や問題を抱えていることが明らかになった。奨学金の返還そのものにとどまらず、利用していることへの負い目や、負担といった精神的負担から結婚などの将来設計まで負の影響を与えていた。それでも、彼らは、現実と向き合い、不安や悩みを受け止めて、自身の進路を選び、生きていく姿があった。そこには、贅沢をしない、と高望みすることの諦めでもあった。

以上のように、生活の苦しさが将来にわたって蔓延している状況に陥り、経済的にも、精神的にも余裕を失っていく若者の存在が明らかとなり、階層の再生産の理論では収まらない、新たな貧困の可能性を本論文では示した。

キーワード：奨学金，大学生，貧困

目　次

1　本論文の背景と目的…… 1
1.1　問題の所在……1
1.2　奨学金制度をとりまく現状……1
1.2.1　日本学生支援機構の貸与型奨学金について
1.2.2　奨学金を利用する背景
1.2.3　奨学金制度の変遷
1.2.4　奨学金制度の問題点
2　分析の方法……7
2.1　本論文における方法論……7
2.2　先行研究における奨学金制度の問題を抱える若者の事例の扱われ方……7
2.3　先行研究からみる「貧困」と「階層」……8
2.3.1　若者の貧困と貧困の世代的再生産理論
2.3.2　階級構造における生産・再生産理論
2.3.3　「豊かさ」と「生きがい」
2.4　分析の焦点……12
3　調査の対象と概要……12
3.1　調査対象について……12
3.2　調査対象者の概要……13
3.2.1　調査対象 A さんについて
3.2.2　調査対象 B さんについて
3.2.3　調査対象 C さんについて
4　奨学金を利用する大学生の語り……14
4.1　当然視される大学進学……14
4.2　奨学金を利用する大学生の生活と意識……16
4.2.1　実感のない奨学金――奨学金を借り始めたとき
4.2.2　それぞれの大学生活――奨学金を利用する今
4.2.2.1　A さんの大学生活
4.2.2.2　B さんの大学生活

4.2.2.3　C さんの大学生活
4.2.3　学生生活からの撤退
4.2.4　家庭に吸収される奨学金
4.2.5　進路選択・就職意識の実態
4.3　高望みしない人生……26
4.3.1　家族形成の展望
4.3.2　贅沢はしない将来展望
4.4　負担を抱える大学生と奨学金……33
4.4.1　奨学金を返還する意識が生まれるとき
4.4.2　奨学金返還の不安
4.4.3　奨学金制度を利用しない人との壁
4.4.4　親子間における大学進学と奨学金
4.4.5　奨学金返還困難時における救済制度の認識
4.5　奨学金制度に対する当事者の声……43
5　結論……44
［注］……47
［文献］……48
［付録］……50